

つながる力

《No.13》



9.30 沖縄知事選 「辺野古新基地建設反対」玉城デニーさん圧勝!



当確を喜び合う、デニーさん達(写真は2018.10.1 沖縄タイムス)

《目次》

- 《沖縄》デニーさん、8万票の大差で知事選勝利/浦島悦子・・・2ページ
- 《沖縄》ちいさなアリでもゾウの足動かせる/北山睦子・・・3ページ
- 《首都圏》今度は本土の私たちが応える番だ/毛利孝雄・・・4ページ
- 《顧問》生物多様性国家戦略を守らせることにこだわろう/湯浅一郎・・・5ページ
- 《首都圏》8月土砂投入ストップ首都圏集会/山野澄子・・・6ページ
- 《首都圏》土砂全協4回目の防衛省交渉/中山敏則・・・7ページ
- 《北九州》フィールドを北九州市内から福岡県内に/八記久美子・・・8ページ
- 《山口》民意を受け止めるよう政府に迫ろう/大谷正穂・・・9ページ
- 《香川》三者連名で香川県知事へ申し入れ/溝淵裕子・・・10ページ
- 《首都圏》立憲民主・枝野代表「基地建設反対」明確に/中村利也・・・11ページ
- インフォメーション・・・12ページ

デニーさん、8万票の大差で知事選勝利

安倍政権打ち破ったウチナンチュ誇りに思う

島ぐるみ会議名護 浦島悦子

翁長雄志前知事の急逝に伴う沖縄県知事選挙の投開票日（9月30日）、投票箱の蓋が閉まったばかりの午後8時過ぎ、「玉城デニーさん当確！」の一報が入った。「まさか！ まだ開票も始まっていないのに…」。2月の名護市長選で、安倍自公政権のカネと権力を総動員した汚いやり口に手痛い敗北を喫した私たちは、にわかには信じられない。今回は、「名護方式（彼らは「勝利の方程式」とも呼んだという）」を豪語する自公に維新も加わり、前回知事選で自主投票だった公明党、前は下地幹郎氏が立候補した維新の票を合わせれば、政権が全面的に支援する佐喜眞淳候補が勝てると踏んでいた。

9月以降、菅官房長官が3回、小泉進次郎氏が3回、その他自公の大物政治家が次々と沖縄入り、公明党・創価学会は全国から7000~8000人とも言われる運動員を送り込んだ。告示（9月13日）の翌日から期日前投票数はうなぎ上り。企業ぐるみの締め付けも極まり、自分が書いた投票用紙を写メで報告させているという話に耳を疑った。ネット上では玉城デニー候補に対する誹謗中傷・デマが拡散・炎上し、それらが90%を占めているという。新聞を読まず、テレビとも無縁で、ネット情報だけを頼る若者世代への影響を考えると、正直こわかった。

投票日前日に超大型台風24号が沖縄を直撃。台風前の期日前投票を、私たちデニー選対も必死に呼びかけたため、期日前投票数は35%を超える過去最多となったが、その中身はどうか。プレハブの我が家から地区の公民館に避難して激しい風雨の音を聞きながら、台風のどさくさに紛れて悪事が行われていないかと、そればかりが気がかりだった。万が一、この選挙に

負けるようなことがあったら、県民を信じ、命を懸けたたたかひのバトンを県民に託して逝った翁長さんに申し訳ないという思いが募り、私はひたすら携帯電話を掛けまくった。

そんな選挙戦を経て、8万票以上の大差で玉城デニーさんが当選!!。沖縄全選挙区でデニー票が上回り、「国に勝った！」という喜びのメールが沖縄中に飛び交った。デニーさんは告示日の出発地に伊江島を選んだが、沖縄県政史上初の離島での第一声は、母親の生まれ島であると同時に、離島苦（島ちゃび）、そして「土地闘争」の原点への思いからだという。保守の牙城と言われるその伊江島で、今回はデニーさんが勝ち、名護市でも市長選の雪辱（デニー票が約1800票上回る）を果たした。

混迷していた後継候補選びが翁長さんの遺言で急転直下決定し、玉城デニーさんは故翁長知事と二人三脚で超短期決戦を走りぬいた。安倍政権の沖縄差別・蔑視に満ち満ちた物量作戦を見事に打ち破ったウチナンチュを、私は心の底から誇りに思う。その耳には「ウチナンチュ、うしえーらっていいないびらんどー（見くびられてはなりませんよ）」という翁長さんの声が常に聞こえていた。気さくで飾らないデニーさんの人柄、「自立・共生・多様性」「誰一人も取り残さない」「沖縄らしいやさしい社会」など、その言葉の力も大きかった。

辺野古新基地を止めるたたかひはまだ先が長いけれど、翁長前知事がしっかりと築いた礎の上に、デニー新知事が県民とともに大きな花を咲かせ、世界に広げていく——、そんな希望をいま私たちは感じている。

小さなアリでもゾウの足動かせる

「デニー当選」後の辺野古ゲート前で

本部島ぐるみ会議 北山睦子

「デニってるか〜い?」「デニってる!」人差し指と小指を立ててレスポンスするのは辺野古ゲート前の人々だ。輪の中心でポーズをとってコールするのは13代(復帰後8代目)沖縄県知事玉城デニー氏本人である。ロックの魂を持ちつつ、時にお茶目なデニー氏、その振る舞いはチムグクル(肝心)が溢れていて人々を魅了する。就任式前日の10月3日急遽テントへ駆けつけてくれたのは、公務が始まると超多忙になるのを見越しての心遣いと思われる。型破りに見えた伊江島での出発式も、やんばるを大事に思う選挙で、「誰一人取り残さない」という思いの現れなのだろう。去り際には「これはみなさんの勝利です」という言葉を残してくれた。

デニー氏はこれから自立・共生・多様性という理念のもと「新時代沖縄」を築くべく努力をしてくれるはずだ。私達も勝って終わりではない。公約を実現させるために見守り・後押しする責任を負っている。彼はある集会でこうも言った「やるのはみなさんです」。このような立候補者の弁は聞いたことがない。もし私達が本当の意味で民主主義を獲得できたなら、沖縄は日本を変える力となるに違いない。

海外のメディアでも、沖縄知事選の歴史的勝利が報じられた。「小さなアリでもゾウの足を

動かせることを知らねばならない」というデニー氏の話が紹介されたという。今回私達は日本政府に勝った。安倍総理はアメリカに隷属するただのつまらぬ人物だ。ゾウをゾウたらしめているのは何だろう。私かもしれない。貴方かもしれない。或いは私たちが選んだ議員かもしれない。官僚、地域の行政をあずかる職員なのか。

例えばこんなことがある。デニー氏を迎えた10月3日の午前中、私達は名護の北部国道事務所へ詰めかけていた。以前からゲート前の国道に設置された柵の不法占拠状態の危険性を指摘し改善を求めていたのだ。台風24号で県内は大きな被害を受け、高さ4mの柵が国道の片側車線を塞ぐように倒壊してしまった。にもかかわらず、台風25号が迫る中においても何ら対策が取られないため抗議に行ったのだ。代表者が3時間ほど粘り強く交渉したが、責任の所在を明らかにしなかった。かくも行政マンの態度はゾウの皮膚より厚いのだ。

アリは絶えず動いている。獲物を見つけた時、危険を察した時、仲間同士密に連絡を取り合っている。ついには自分たちよりはるかに大きな物を運ぶことを成す。私達もまたゾウをも動かすアリになれるのだ。



台風 24 号で壊れた高さ4mの車両入り口の柵
(2018.9.30 沖縄タイムス)



デニーさんのキャッチフレーズ「デニってる!」のポーズ
で盛り上がるゲート前(2018.10.4 沖縄タイムス)

今度は本土の私たちが応える番だ

県知事選最終盤の沖縄を訪ねて

辺野古土砂搬出反対首都圏グループ 毛利孝雄

知事選最終盤の沖縄に向かった。東京でやることをやろうと思いつつ、日が経つにつれ胸のワサワサを抑えきれなくなった。呼び寄せられるようにして向かった沖縄、そのようにして全国から駆けつけた人たちが、市民選対に集まっていた。

27日夕方、国道58号線の久茂地交差点一帯はグリーンとオレンジの翁長+デニーカラーで埋まり、通行する車輦にアピール。手振りやクラクションで応えてくれる人、乗降用のマイクで「はい、頑張っ！」の声は路線バスの運転手さん。それは6年前、オスプレイ反対闘争で経験した既視感のある光景だった。

台風準備の買い物でスーパーを訪れる人に、支持を訴える。県外からの人たちとわかっているはずだけど、「台風だからね。もうデニーさんに入れてきたよ」などの声がかかる。

移動のために乗った5台のタクシー、運転手さん全員から「デニーさんね」と返事返ってきた。

本土側でも、県知事選応援の街宣やスタンディングの取り組みが、全国に広がったことは沖縄で知った。友人と2人で駅頭に立ったと千葉の友人からもメールが届いた。本土の変化と広がり4年前にはなかったことだと思う。

20年を超えて1日も欠かさず続く辺野古ゲート前や海上での現地行動。それを支えてきた沖縄各地の島ぐるみ会議等の民衆運動。そして翁長知事の4年間は、辺野古を可視化し地域や



一人ひとりと握手を
交わす(9月28日・
那覇小祿・撮影筆者)

国を超えた連帯を広げ、新たに生み出してもいいのだ。

軽々に語ることは許されないが、米兵を父に持ち母子家庭に育った沖縄戦後史そのものを体現する玉城デニー知事の誕生は、翁長雄志知事の4年間とともに沖縄現代史を画するものとして刻まれることになるだろう。

それにしても思うのは、ときにウチナーグチを交えた故翁長雄志さんの「言葉」の圧倒的存在感だ。

「誇りある豊かさ」「基地は沖縄経済発展の阻害要因」「イデオロギーよりアイデンティティ」

「魂の飢餓感」「ウチナーンチュ、ウシェーティナイビランドー(沖縄の人をないがしろにしてはいけませんよ)」「ヌチカジリ、チバラナーヤーサイ(命の限り頑張らましよう)」「ウチナーンチュが心を一つにして闘うときには、お前(次男・雄治さん)が想像するよりもはるかに大きな力になる」

それは、県民を鼓舞する「言葉」であるとともに、本土の民意への問いかけであったことを、本土の私たちは片時も忘れてはならない。玉城デニーさんを知事に押し上げた沖縄の民意に、今度は本土の私たちが応える番だ。(2018年9月30日・玉城デニーさんの当選確実を受けて)



当選確実！超満員の選挙事務所
(撮影・糸数慶子事務所)

生物多様性国家戦略を守らせることにこだわろう まずは、沖縄県土砂条例の改正強化を

辺野古土砂全協・顧問 湯浅一郎

9月30日、沖縄県知事選挙は玉城デニー候補が圧勝した。菅官房長官や二階自民党幹事長など大物を投入し、公明党も全国から大動員をかけた中で、これだけの大差がついたことは、沖縄の人々が、亡くなった翁長知事の遺志に強く共感していた証左であろう。これにより辺野古新基地建設が止まるわけではないが、それでも闘う基盤ができてことは間違いない。

何よりも18年春に防衛省の調査から明らかになった大浦湾側のケーソン護岸一帯の海底にN値ゼロという超軟弱地盤が広がり、ケーソン護岸設置に大きな困難が伴うという問題を活かせば、埋立て事業の本体を止めていける可能性が出てきた。N値とは、標準貫入試験による地盤の支持力を示す数字で、ボーリング調査の孔にサンプラーを置き、重り（モンケン）を落とした時、サンプラーが30cm食い込むための打撃数で定義される。N値ゼロとは、サンプラーと重りをセットしただけで、ずぶずぶと沈んでしまうということである。厚さ40mもの「マヨネーズ」のような軟弱地盤を相手に、大量の捨て石を投下し、巨大なケーソン護岸を設置するには、とてつもなく大規模な地盤改良工事が必要となり、設計変更の沖縄県知事による承認が必須となる。玉城知事の誕生は、これを承認しない態勢が整ったことを意味する。新基地建設で最も重要な工事が進まなければ、岩国基地を模した港湾付きの新軍事空港構想は夢幻となるのである。

この新局面を、さらに強めるべく、全国土

砂協として5月沖縄総会も踏まえ、以下の取り組みを進めるべきであろう。

- (a) 新たな署名運動…美しく豊かな辺野古の海を埋め、そのために西日本の自然を切り刻み、かつ外来種を沖縄島へ持ち込む危険性など、辺野古新基地建設の埋め立て事業は、3重の意味で生物多様性国家戦略に違反する行為である。このことを広く市民に知らせ、政府の行為の不当性を浮き彫りにするために、新たな文面での署名運動を全国各地で展開する。
 - (b) 沖縄県議会に対し土砂条例を改正強化し、外来生物の沖縄への移入チェックを厳格化させる…具体的には、①現行の「届出制」を「許可制」にすること、②知事の指示に違反した事業者に対する罰則規定を追加すること、③審査期間を90日以上に延長することなどを沖縄県議員と折衝していく。併せて沖縄県と土砂持ち出し県との自治体の広域連携を追求する。
 - (c) 防衛省、環境省に対して、包括的な外来生物防除対策を示せと迫る…防衛省は、未だ生物多様性国家戦略を守るための包括的な外来生物侵入防除対策を示せないままであるが、「沖縄県条例に誠実に対応していく」としていることに着目したい。
- これらの取り組みは、人類共通の生物多様性の保持と回復という大きな課題に対し、政府ではなく、市民こそが真剣に向き合っていることを浮き彫りにするはずである。



8月土砂投入ストップ!首都圏集会

土砂で辺野古に運ぶな!本土からの特定外来生物

沖縄一坪反戦地主会関東ブロック 山野澄子



イスが足りなくなるほどの参加があった学習会

7月25日全水道会館で上記集会が開催された。翁長知事の撤回表明が今日か明日かと言われている中での集会で会場は通路にも人々があふれていた。参加者220人とのこと。土砂全協からの報告者が6人、ほかに連帯アピールと盛りだくさんな集会であった。明日は省交渉を控え気合も十分、短い持ち時間を目いっぱい話された。

沖縄からの報告は北上田毅さん。「今日は撤回報告を出来ると思ったが」に、会場も苦笑。7月19日に2-1工区の護岸が閉じられた。撤回表明を求めた県庁前での座り込み、副知事と市民団体との面談、サンゴ特別採捕許可の際は翁長県政初めての三役室前座り込み抗議など、直近の出来事を報告。情報公開で得た防衛省のボーリング調査の結果は、N値0の軟弱地盤であることが発覚。地盤強化のため設計変更が必要だが、防衛省は県への届け出なしに業者との契約を終了している。政府は言うとおりになる知事の当選を待って届け出るつもりで隠している。知事選は負けるわけにいかない。

自然と文化を守る奄美会議・土砂全協の大津さんは琉球大学奄美分校で学んだが卒業が復帰の年で卒業証書が出なかった。39年後にやっと琉大から卒業証書を手にしたとのエピソードを話された。奄美とやんばるがともに自然文化遺産に登録される筈の機会を軍事基地のために逃した。「政治の裏と表」だと厳しく批判。

那覇空港の埋め立て時奄美からハイイロゴケクモを運んだ実績から鹿児島県知事に搬出を認めないよう要請・追及されている。

北九州連絡会の八記久美子さんは「辺野古に土砂は出さないで!」は揺るぎないが、搬出業者とは顔の見える関係で切ない思いも感じるとの心境吐露も。だが精力的に上映会や講演会を地元で開催し、知ってもらうために奔走しているとの報告。

土砂全協の阿部悦子さんは、2013年3月27日、那覇で「埋め立て土砂の73%は西日本から」の記事を目にし活動は始まった。そして西日本各地とつながってきた。「今日の本題は沖縄県の土砂条例」と具体的に提言。条例は画期的だが罰則規定がないため実効性がない。沖縄県に働きかけていきたい。県外土砂の搬入を止めることが辺野古埋め立て阻止の大きな手だて。「土砂は本土から」と意識し、この国全体の運動にしなければいけないと言いつられた。

まとめと行動提起は土砂全協顧問の湯浅一郎さん。日本は「生物多様性条約」を締結、「生物多様性国家戦略」もありながら、辺野古での国の行いはこれらに背を向けるもの。防衛省は現在、外来生物防除方法を持っていない。当面の行動として3点を上げた。土砂採取計画の撤回を求める新しい署名を始める、沖縄県に土砂条例の改正を求め、防衛省に外来生物防除対策を示すよう求める。

アピールや挨拶も熱のこもったものであった。報告者のどなたからも風光明媚な故郷への愛着を感じた。「人口の多い首都圏」へ運動の広がりを期待するエールも送られた。西日本の思いを首都圏での運動に活かさなければならない。

※「一坪反戦通信」に書かれたものを了解を得て掲載しました。

辺野古の海に土砂を入れるな!

土砂全協が4回目の防衛省交渉

辺野古土砂搬出反対首都圏グループ 中山敏則

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会（土砂全協）は7月26日、防衛省と4回目の交渉をおこなった。交渉で浮き彫りになったのは、法制度や諸問題を無視し、なにがなんでも土砂を投入しようとする防衛省の強引な姿勢である。

たとえば特定外来生物の侵入防止策である。防衛省は「現時点において、特定外来生物の駆除方法で具体的にきまっているものはない」

「いま契約している埋め立て工事はすべて沖縄県内の土砂を用いる」と答え、外来生物侵入防止の実効策をいっさい示さない。

沖縄県外の土砂搬出予定地では、住民運動によって土砂採取を止めたところもある。土砂全協はそれらの事例をあげてこう追及した。「辺野古の埋め立てに用いる土砂の75%は沖縄県外から運び入れる。もしそれが入ってこないとなると、抜本的な変更あるいは中止をせまられる。8月17日開始の埋め立てはやめるべきだ」。しかし防衛省は、「現時点では、埋め立て承認願書の添付図書に記載されている採取場所と採取量に変更はない」をくりかえした。

大浦湾の埋め立て予定海域では、沖縄防衛局の地質調査によってN値ゼロの軟弱地盤が確

認された。N値ゼロは「マヨネーズのようなくにやぐにゃの軟弱地盤」といわれている。これについても防衛省は、「継続中のボーリング調査の結果などをふまえ、地盤の強度については総合的に判断する必要がある」の回答に終始した。

防衛省のひどい答弁にたいし、参加者からは「いいかげんにしてほしい」「特定外来生物の侵入防止策を本気で講じようとしているのか」「生物多様性国家戦略を守る気があるのか」などの批判が相次いだ。

交渉には50人が参加。国会議員も、沖縄等米軍基地問題議員懇談会所属の議員など本人8人、秘書8人が同席した。交渉のあと、沖縄選出の糸数慶子参議院議員はこうのべた。

「防衛省との交渉はフラストレーションがたまる。しかしそれでもやりつづけなければならない。埋め立てどころか土砂の問題も含めてあらゆる課題を残しているので埋め立ては決行できないと私は信じている。あきらめずにがんばることを申しあげたい」



7月26日、参議院議員会館にて、防衛省手前と交渉する土砂全協のメンバー

フィールドを北九州市内から福岡県内に 第4回総会に20代～80代の40人が参加

「辺野古埋め立て土砂搬出反対」北九州連絡協議会 八記久美子

9月1日(土)、北九州生涯学習総合センターにおいて、辺野古土砂北九州第4回定期総会を開催しました。

議案は「30部もあればいいやろう」と思いながら、成り行きで40部印刷。ところが参加者が増え続け、結局用意した議案数ぴったりの40人の会員さんが総会に参加されました。「ほかの総会と重なっているの、すみません」と電話をくださった会員さんが、「やっぱりこっちが気にかかる」と来られるなど、辺野古に対する危機感が広がっていることを実感する、総会のスタートでした。

総会で承認された大きな方針の1つは、これまでの「北九州市内に運動を広げよう」から、「県内の団体と力を合わせよう」に変化しました。また、一つ一つの運動を丁寧に取り組めるよう、今まで空席だった念願の事務局次長も決めました。余談ですが、担当者に何があっても会として困らないように、会員名簿・発送住所録・出納帳などのデータを複数で管理することも決めました。

当面の課題は3つです。一つは辺野古カレンダー(新聞一面分の大きさ)を400枚作り、300枚は会員さんに、後の100枚は、門司の商店な

どに貼ってもらう運動です。カレンダーには、小さくですが、「辺野古の埋め立てに、門司の土砂が740万^m³使われるが、私達は故郷の土砂を戦争に使ってほしくない」という内容のメッセージを入れます。

当初、せめて土砂搬出予定の門司区だけでも、全世帯を対象にした運動をしようと、全世帯のチラシ配布を計画しましたが、それが「新聞広告」→「ポスター」→「カレンダー」に変化しました。カレンダーだと一年間見てもらえるし、話題にしてもらえるからです。当面の課題のあとの2つは、12月の「沖縄スパイ戦史」の上映会と新署名の取り組みです。

つくづく思うのは、みんなで知恵を出しあえば、よりいいものが生まれるという事です。毎月の小倉駅前の街頭宣伝でも、「A6に折ったチラシ」・「大浦湾の写真展示」等するようになりましたが、これも世話人会の発案です。

最近、ある会員さんが21人も会員さんを増やしてくれました。現在個人会員さんは231人です。毎日新聞からは、「人の欄で紹介したい」とお声がかかりました。私たちの運動が少しずつ変化を生んできていることを、日々実感しています。



総会終了後、みんなで記念写真を撮りました

民意を受け止めるよう政府に迫ろう

「辺野古新基地断念を迫る申入れ」に沢山の賛同

「辺野古に土砂を送らせない!」山口のこえ 大谷正穂

■基地はいらない、どこにも

「日本はすごい量の防衛装備品を買うことになった」-日米首脳会談でトランプ大統領は言いました。これってイージス・アショア（地上配備型迎撃ミサイルシステム）のことかな。

秋田県と山口県北部の萩市、阿武（あぶ）町にある陸自むつみ演習場にこのミサイルシステム配備計画がある。山口県の両地区住民は反対運動をすすめる。阿武町議会は住民の提出した反対請願を全会一致で採択、花田阿武町長も「反対」をハッキリさせた。もちろん地区外の県民も黙ってはいない。反対運動をする顔ぶれをみると、「山口のこえ」のメンバーが多い。私たちの共通の思いは、基地はいらない、どこにも。

この問題を考えると真っ先に浮かぶ疑問。東北アジアに軍事的な緊張はまだあるの。朝鮮半島南北首脳の会談が重ねられ、きのうまで敵対し罵り合っていた米朝がトップ会談をすすめる。イージス配備はこの流れと逆行するのではないか。そこにトランプ発言をかぶせると謎はすぐ解ける。ああ、だから安倍総理は大変だ。

■辺野古断念を迫ろう

承認撤回で工事は止まった。次は政府と沖縄県の問題になると、沖縄県外の私たちは「観客」になっていないか。いま私たちがなすべきことは、県知事選で再度明らかになった辺野古新基地はいらないの民意を受け止めるよう政府に



イージス・アショアの配備計画があるむつみ演習場

迫ることではないのか。大きな組織などばかりに任せず、主権者である一人ひとりが当事者になって動こう。

「山口のこえ」は9月半ばから、山口県内の団体などによる「政府に辺野古新基地断念を迫る申入れ行動」を行っている。半月で30を超える賛同が集まった。今後もすすめ県内にある安倍事務所に持ち込む予定だ。

闘いは生きものだ。いま、政府は守勢にある。辺野古断念を実現させるためにこのチャンスをいかし攻勢にしよう。東北アジア状況が不透明な中で計画された軍事基地がいまも必要なのか、イージスと同じ素朴な問いかけを発しよう。とは言っても、イナカの私たちに全国に届く声を出す力などはない。だからと理由をつけてやめない、いま自分たちにできることをする。辺野古の座り込みから教えられた。基地がなければ戦争はできない。イージス・アショアも辺野古新基地もいらない。

新刊紹介

岩波ブックレット NO.987

辺野古に基地は つukれない

山城 博治 北上田 毅

2018. 9. 26 発行

本文 62 頁 定価 520 円+税

工事は“肅々と”進行…
なんかしていない。

沖縄の美ら海を破壊し、強行される米軍基地建設。しかし、県民の抵抗と、あまりの難工事のために工事は遅れに遅れている。まだ止められる。必読の書です。

地方自治をないがしろにする安倍政権に抗議を 三者連名で香川県知事へ申し入れ

故郷の土で辺野古に基地を作らせない香川連絡会 溝渕裕子

先日の沖縄県の知事選では、故翁長知事の遺志を引き継いだ玉城デニーさん勝利！という嬉しいニュースに、心が沸きあがった。

私たちは、去る9月28日に香川県知事に対して、「辺野古新基地建設に関する沖縄県埋め立て承認取り消しに対する法的措置の検討をやめ、承認取り消し受け入れを政府に求める申し入れ」を行った。浜田知事は来られず、香川県知事公室長の淀谷氏と20分間という短時間ではあったが、話し合いの場を持つことが出来た。

申し入れは「香川県平和労組会議」「小豆島革新懇」「故郷の土で辺野古に基地を作らせない香川連絡会」の三者連名で行った。

これまで小豆島の土砂搬出に関しては香川県と交渉してきたが、今回はそのことにはあえて触れず、地方自治や民主主義をないがしろにしている政府の沖縄に対する強権的な姿勢を、同じ地方自治体として自分事としてとらえ、政府に抗議して欲しいという主旨にした。さらに、今年7月には全国知事会で日米地位協定の改定を求める提言が全会一致で採択されており、香川県としても基地問題をどのようにとらえているか等を問うた。

淀谷公室長は、数年前の全国知事会で翁長元沖縄県知事が、「基地問題を知事会として考えて欲しい」と話をされたのが印象に残っているとされていた。

出席者からは、「県民の生活と命と財産を守るのは香川県知事も掲げている。沖縄だけの問題とせず自分事として考えて欲しい」

「基地の引き取り運動などもあるがどう考えるか」などの質問が出された。具体的な回答

は、時間の制約もあったためその場ではされず、後日、文書でもらうことを確認して終えた。

次に、香川連絡会として、自民党の県議二会派に「辺野古新基地建設に関する、沖縄県民の民意を暴力的にふみにじる政府に対する抗議及び申し入れ」の提出を行った。アポなしだったため、議員は出払っており、事務局に手渡すのみとなった。

マスコミ各社へは、県記者室とFAXで取材依頼をしていたが、来たのは赤旗一社に留まった。

今回玉城デニー沖縄知事が誕生したことで、今後どのような変化がもたらされるのか。政府からの嫌がらせはますますエスカレートするだろう。私たちは今後も街頭行動や映画会や要請行動など様々な動きを通じて、ひとりひとりが自分の問題として基地のことをとらえていけるよう、歩んでいきたいと思う。



香川県知事公室長の淀谷氏に要請文を渡す

立憲民主・枝野代表「辺野古基地建設反対」明確に発言

3回にわたる要望、大きな後押しに

辺野古への基地建設を許さない実行委員会 中村利也

昨年の12月と本年1月に引き続き、野党第1党である立憲民主党に対し、「辺野古移設再検証、ゼロベースで見直す」という基本政策の実行を求める要望書への賛同を集めるアクションを、沖縄・辺野古基地建設反対の運動に関わっている16名が呼びかけ人となり本年7月末より開始しました。

同党は昨年末上記の基本政策を決定し、党内に「辺野古新基地移設方針に関する再検証委員会」を立ち上げましたが、半年が過ぎても「ゼロベースの見直し」の案が提出されず、具体的な行動が見えない中で、8月17日に予定されていた土砂投入を前に、翁長知事（当時）が承認撤回を表明するという切迫した状況の下、改めて多くの人々の声を同党に届ける必要があると考えたからです。幸いにも、短期期間ながら「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」を含む、合計で57団体（内1匿名団体）349名（内匿名34名）という前回を上回る数の賛同者が全国から集まり、本年8月10日と9月11日の2次にわたり提出しました。

8月10日の第1次提出後の8月29日、枝野代表が同党沖縄県連合会設立会見で、「基本政策」から大きく踏み込んで、「翁長知事の意味を受け止め辺野古基地建設工事を無期限に止めるとともに、米国に再交渉をすることを求めたい」と明確に発言しました。

面談に応じていただいた同党の担当者の方からは、枝野代表が「辺野古基地建設反対」を明確に表明するについては、私たちの3回（1回は郵送）にわたる要望も大きな後押しになったとおっしゃってくれました。また、枝野代表の発言した内容は正式文書になっていないが、

党としての見解だと理解してもらって結構であり、広めていただいて構わない、とのことでした。また、同党が辺野古新基地建設反対を明確に打ち出したことで、市民と党とをつなぐ「立憲民主党パートナーズ」などの場で沖縄の基地問題を提案しやすくなったことも話題になりました。今後、いろんなチャンネル、ルートで応援していく必要があると考えます。

沖縄知事選挙では、「あらゆる手段を使って辺野古基地建設を阻止する」という翁長知事の遺志を受け継ぐことをはっきりと掲げた玉城デニーさんが、安倍政権が全力で押し立てた佐喜真前宜野湾市長を8万票の大差を付けて当選しました。しかし、安倍政権はなお、「辺野古が唯一の案だ」という姿勢を頑なに続け、法的対抗措置をする構えです。

今回の要望書に賛同してくれた人々の声も背景にしながら、私たちは今後、国政の場において同党を始めとする野党が、安倍政権に辺野古新基地建設を中止することを迫っていくことを後押ししていきたいと思います。

※「辺野古土砂全協」は、「立憲民主党への要請書提出アクション」による、第1次・第2次の要望書提出に賛同団体として参加しています。



党の沖縄県連合会設立会見で、「米国に再交渉をすることを求めたい」と発言した、枝野代表。
※写真は衆議院のホームページから。



新たな署名にご協力を

辺野古土砂全協では2015年から「西日本各地からの辺野古埋め立て用土砂採取計画の撤回を求める」署名を進め、計11万7310筆を、今年3月15日まで内閣総理大臣に提出してきました。そして、今年5月、沖縄市で開催した第5回総会で、「新たな署名」を進めることを決定しました。

新たな署名（別紙折込）は、土砂採取計画が生物多様性条約・外来生物法、そして閣議決定「生物多様性国家戦略」に反する行為であることを訴え、土砂計画の撤回を求める国会への「請願署名」です。

そして、辺野古埋め立て・新基地建設がひとり沖縄の問題ではなく、本土各地の採石地の環境破壊をもたらす事業であり、本土に住む全ての人々も「当事者」であることを訴えていきたいと思えます。

- ・これまで署名頂いた方も署名に再度参加して頂けます。お知り合いに再度呼びかけて下さい。
- ・署名用紙ご希望の方は、下記の事務局または連絡先まで、出来るだけメールかFAXで。

デニーさん、知事選勝利！ 次は『オール日本』で！

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会

共同代表 大津 幸夫



安倍政権の「辺野古が唯一の選択肢」の牙城に対し、翁長知事は「ヌチカヅリ、チバラナーヤーサイ（命の限り頑張りましょう）」と県民大会へのメッセージを残して急逝されました。死去に伴い9月30日投開票に早まった県知事選は、故翁長知事の志を継ぎ党派を超えた「オール沖縄」が、県知事選挙史上最多得票、安倍政権が総力戦で推した候補に8万票の大差で勝利しました。

「諦めない住民運動」は「オール日本の運動」に発展させるべく更に続けていきましょう！

2018年度会費のお願い

土砂全協も4年目に入りました。2018年度団体・個人会費のお納めをお願いします。カンパ大歓迎です。

すでに納入された方にも振込用紙を同封しています。ご了承下さい。

郵便振替口座

番号 01750-8-144158

名義 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会

■ 編集後記

9月12日から1週間沖縄に滞在。今年2月の名護市長選での政府の権力と金力による選挙に敗退した体験が、多くの友人たちを悲観的にさせていた。しかし・・・玉城デニーさんの勝利！

「勝ったのはウチナーの肝美さ（ちむじゅらさ・真心の美しさの意味）、負けたのは沖縄をみくびった政府」これは三上智恵監督の言葉だ。またデニー知事を称して「沖縄からしか出てこない逸材」とも。

「土砂全協」各地もまた沖縄の闘いを目の当たりにして、辺野古に故郷の土砂搬出を許さない運動を強めていく覚悟を強くしている。今号では充実する各地の運動を紹介した。「つながる力」で、さらに元気に闘っていこう！（阿部悦子）

《辺野古土砂搬出反対全国協議会ニュース》

発行責任者…全国連絡協議会共同代表 大津幸夫（自然と文化を守る奄美会議）

阿部悦子（環瀬戸内海会議） hibi_etsuko@yahoo.co.jp

編集…松本 宣崇（環瀬戸内海会議） nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp

八記久美子（門司の環境を考える会） kanpanerura8k@mail.goo.ne.jp

事務局 〒700-0973 岡山市北区下中野318-114 松本方 TEL・FAX 086-243-2927

連絡先 〒794-0026 愛媛県今治市別宮町9-7-4 阿部悦子 TEL 090-3783-8332

郵便振替 01750-8-144158 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会

請願
署名

STOP! HENOKO

本土からの辺野古埋め立て用の土砂搬出計画を止めよう

辺野古新基地建設への土砂埋め立てで

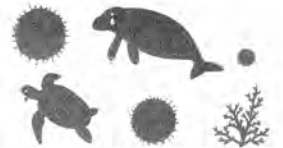
西日本から大量の土砂が搬出されます

埋め立てに必要な土砂約2,100万m³のうち、約75%は奄美・九州や瀬戸内海など県外7箇所から持ち出される計画です。土砂が持ち去られる地では、深刻な環境汚染が起きています。



辺野古の海が破壊され 外来生物により沖縄島の生態系が壊されます

辺野古新基地は、ジュゴン、ウミガメ、サンゴ類の棲む、辺野古の美しく豊かな海を埋めてつくられます。埋め立ての土砂と一緒に、アルゼンチンアリ、ハイイロゴケグモ、オオキンケイギクなど、特定外来生物が沖縄へ運び込まれ、生態系を壊します。



これらの行為は、どれも生物多様性条約やそれに基づいた生物多様性国家戦略に違反する行為です。

衆議院議長 殿 参議院議長 殿

「故郷の土で辺野古の美しい海を埋め立てないでほしい」「故郷の土を基地建設に使うのはほしくない」との思いから、西日本からの土砂搬出計画の撤回、および辺野古新基地建設の土砂投入の中止を強く求めます。

名前

住所

例) 山田太郎

例) 〇〇県〇〇市〇〇〇〇1-2-3

取り扱い団体

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会 共同代表 大津幸夫 (鹿児島県奄美市)・阿部悦子 (愛媛県今治市)

【署名締め切り】 第1次:2018年12月末

【署名用紙送付先】 〒803-0816 北九州市小倉北区金田1丁目3-32-308 八記久美子方

【お問い合わせ先】 阿部悦子 Tel: 090-3783-8332 E-mail:hibi_etsuko@yahoo.co.jp

※この署名用紙は、目的以外に使用することはありません。

署名用紙を手にした皆さまへ

知っていますか？

辺野古を埋め立てる土砂の75%が、「本土」(西日本)から持ち出されます。

私たちの故郷の土が、遠く沖縄の辺野古・大浦湾埋め立てに使われる。それも戦争のための基地建設に！ビックリしました。右の図が搬出計画のあらましです。

- ・土砂搬出予定地では、すでに採石による環境や景観の破壊が進行しています。
- ・アルゼンチンアリ・ハイイロゴケゲモ・オオキンケイギクなど西日本各地に生息する**特定外来種**が、埋め立て土砂に混入し、沖縄の生態系を攪乱することが危惧されます。そもそも生態系の異なる温帯域の「本土」から、亜熱帯域の沖縄に大量の土砂を移動すること自体が犯罪行為です。
- ・そして何よりも、西日本からの土砂で埋める予定の辺野古の海は、ジュゴン、ウミガメの生息地として世界的にも生物多様性の豊かな海なのです。

1992年、リオデジャネイロ地球サミットで国際社会は**生物多様性条約**を採択しました。2010年名古屋で開催された第10回締約国会議では、生物多様性の損失を止めるため2020年までの短期目標(愛知目標)を採択し、各国は「沿岸海域の10%を海洋保護区にする」、「外来生物の制御と根絶を図る」ことに合意しました。日本政府がその実行責任を負っていることは、いうまでもありません。

その責務を果たそうとすれば、生物多様性の豊かな辺野古・大浦湾は、税金で埋めるのではなく、海洋保護区にすべき海であることは明らかです。また、土砂移送に伴う外来種侵入防止対策もないまま工事を強行することもあり得ないことです。

8月31日、沖縄県は辺野古工事を違法として埋立承認を「撤回」し、工事はストップしています。9月30日の県知事選では、翁長雄志前知事の遺志を継ぐ玉城デニーさんが、過去最高となる40万に近い得票を得て新知事に当選しました。

玉城デニーさんを知事に押し上げた沖縄の民意に、今度は「本土」の私たちが応える番です。辺野古の新基地を断念させるため、「本土」から辺野古埋め立て土砂を搬出させないという声を高めていきましょう。それは「本土」側の私たちの責任です。

一人でも多くの方に、この署名が届き、署名に参加していただけることを願っています。

2018年10月

